

令和元年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

環境にやさしい飼養管理による鶏肉生産と耕畜連携・循環型農業を実践

○氏名又は名称 株式会社アイオイ(代表 五十嵐 忠一)

○所在地 山形県最上郡鮭川村

○出品財 経営(肉用鶏)

○受賞理由

・地域の概要

鮭川村は、山形県最上地域の北西部に位置し、山形県内でも豪雪地帯として知られている。平成30年時点、最上地域の畜産農家数は235戸で、山形県全体の約20%を占め、このうち採卵鶏経営が5戸、ブロイラー経営が4戸である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

代表取締役の五十嵐氏は、昭和54年からブロイラー経営を行ってきた。平成18年に株式会社アイオイを設立して、以後、徐々に飼育羽数を増羽しており、平成30年11月時点の飼育羽数は、約15万羽、年間出荷羽数は90万羽で、山形県内では最大、南東北地域でもトップクラスの規模を誇っている。

・受賞者の特色

(1) 効率的で衛生的にも優れた環境にやさしい飼養管理

全自動ウインドレス鶏舎を用いて、コンピュータ制御による効率的な飼養管理を行っている。また、モニターによる鶏舎内の常時監視、農場HACCPの導入、自社所有の飼料運搬車の利用等により、衛生的にも優れた飼養管理を行っている。さらに、鶏舎内の給温や消毒後の鶏舎内乾燥には、鶏糞を燃料とする鶏糞温水ボイラーを用いており、化石燃料使用量の削減及び環境負荷の低減を図っている。

(2) 耕畜連携・循環型農業の推進

飼料用米の利用を積極的に進めており、鶏糞温水ボイラーの焼却灰を特殊肥料として、自社が購入する飼料用米の生産農家に供給している。また、従来粉状で供給していた焼却灰について、粉塵飛散の防止により使用農家の利便性を図るために造粒装置を導入するなど、耕畜連携・循環型農業の推進に努めている。

・普及性と今後の発展方向

今後も飼育羽数の増羽を予定しており、鶏肉の出荷先も安定していることから、効率的な経営がより期待できると思われる。また、自社生産の鶏肉の販売直営所を併設した鶏肉加工施設の新設が計画されており、飼育羽数の増加に伴う雇用数の増加と併せて地方雇用の創出も期待できる。